

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(ブログ「石油と中東」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー:0483

(注)本稿は2019年11月7日から14日まで6回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2019.11.22

前田 高行

生産量は増えても売上・利益は減少:五大国際石油企業2019年7-9月期決算速報

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 五社の7-9月期業績比較	1
2. 2018年第3四半期以降の四半期別業績の推移	5

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、BP、Total 及び Chevron)の7-9月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益(総合、上流部門、下流部門)、売上高利益率、設備投資および石油・天然ガス合計生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

<https://news.exxonmobil.com/press-release/exxonmobil-earns-32-billion-third-quarter-2019>

Shell:

<https://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2019/third-quarter-2019-results-announcement.html>

BP:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/third-quarter-2019-results.html>

Total:

<https://www.total.com/en/media/news/press-releases/third-quarter-2019-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-reports-third-quarter-net-income-of-2-6-billion>

なお過去の四半期業績及び2010年から2018年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

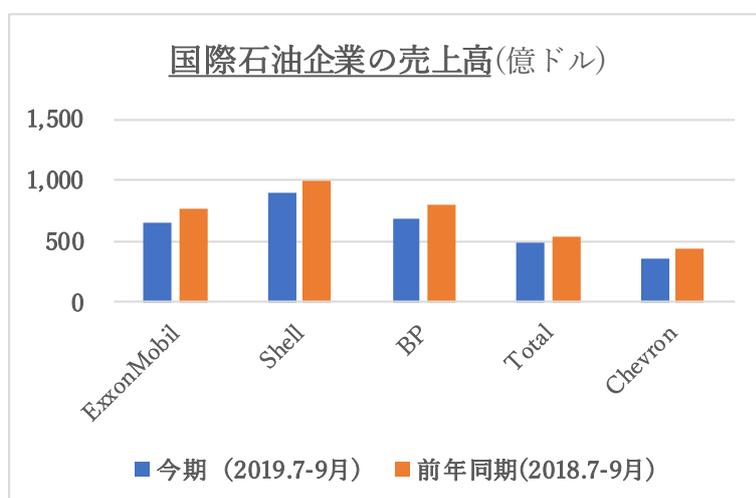
<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>

2. 五社の7-9月期業績比較(末尾表 1-D-4-22 参照)

五社を横並びで比較すると売上高、総合損益、下流部門利益及び天然ガス生産量では Shell がトップである。そして設備投資、原油生産量および原油と天然ガスを合計した生産量の各分野では ExxonMobil が、また上流部門利益及び売上高利益率は Chevron がそれぞれトップである。前年同期と比較すると総合利益では Shell がわずかに前年同期を上回っているが、他の四社は大幅な減益である(BP は欠損を計上)。また売上高も5社ともに10%以上の減収である。これに対して原油生産量は5社のいずれもが前年同期を上回っている。生産増にもかかわらず減収・減益決算になったのは油価の下落が原因である。ちなみに Shell の資料によれば、昨年7-9月期の Brent 原油の平均価格はバレル当たり68.38ドルであったが、今年7-9月期は62ドルと約10%下落している。

(トップを独走する Shell、前年同期比では5社全てが二桁台の減収！)

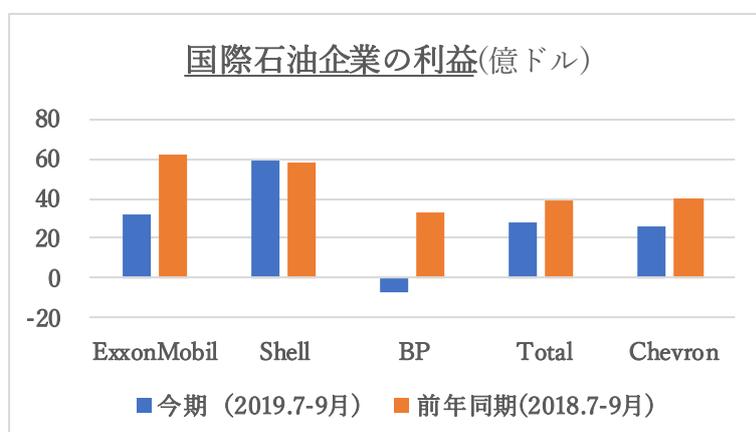
(1) 売上高



各社の売上高は Shell が895億ドルと最も多く、次いで BP が683億ドル、ExxonMobil650億ドル、Total486億ドルで、Chevron は5社の中で売上高が最も少ない361億ドルである。トップの Shell は2位 BP、3位 ExxonMobil の1.3倍であり、最も少ない Chevron の2.5倍の売上高を誇っている。また各社の対前年同期の減収幅は、Shell 10.6%減、

BP 14.1%減、ExxonMobil 15.1%減、Total 11.2%減、Chevron 17.9%減といずれも二桁台の減収であった。

(2) 総合利益 (図: <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-4-52.pdf> 参照)

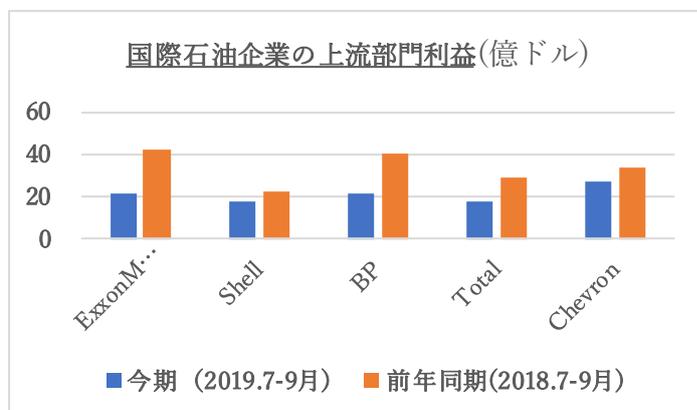


総合損益では BP を除く4社が利益を計上しており、BP1社だけが赤字決算である。利益額が5社の中で最も大きいのは Shell の59億ドルであり、これに次ぐのが ExxonMobil の32億ドル、さらに Total、Chevron が各々28億ドル及び26億ドルで続いている。BP は5社の中で唯一7億ドルの欠損を計上している。前年同期と比べ

ると Shell は横ばいであるが、その他の4社は大幅な減益である。Total は前年同期比3割減、

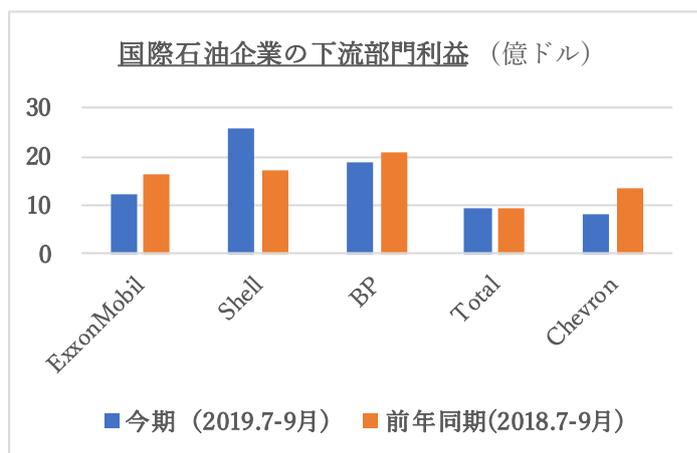
Chevron は4割減であり、ExxonMobil の利益は半減している。前年同期には33億ドルの利益を計上していた BP は一転して7億ドルの赤字決算であった。

(3) 上流部門と下流部門の利益



利益を上流部門(石油・天然ガスの開発生産分野)と下流部門(石油精製および製品販売分野)に分けて比較すると、上流部門では5社の利益に大きな差はなく、トップは Chevron の27億ドルであり、ExxonMobil 及び BP が22億ドル及び21億ドル、Total 及び Shell は共に17億ドルであった。各社とも大幅な減益であり、ExxonMobil 及び BP は半減、Total は4割減であり Shell 及

び Chevron も2割強の減益であった。



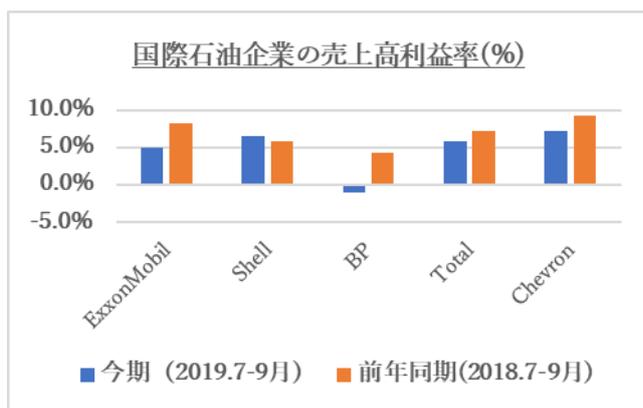
下流部門の利益は Shell がトップの26億ドルである。同社の場合は下流部門が上流部門の利益を上回っているが、その他の4社はいずれも上流部門の利益の方が多い。Shell に次いで上流部門の利益が高いのは BP(19億ドル)であり、ExxonMobil は12億ドル、Total 及び Chevron は10億ドルを下回っている。前年同期と比較すると各社によって明暗が分かれ、Shell は51%

増と好調で Total が横ばいであった一方、BP は1割減、ExxonMobil と Chevron は▲25%及び▲40%と大幅に落ち込んでいる。

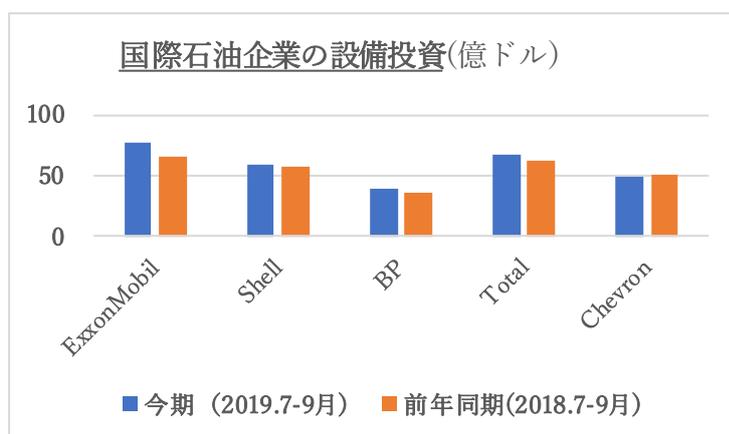
なお上記(2)総合損益は各社によって石油化学品部門あるいはその他の損益を含むため上・下流部門の利益の合計額とは一致しないケースがある。

(4) 売上高利益率

売上高利益率は Chevron が7.1%と最も高く、Shell 6.6%、Total 5.8%、ExxonMobil 4.9%と続いており、BP のみ利益率がマイナス(▲1.1%)である。前年同期に比べると、Shellを除く4社の利益率は低下している。



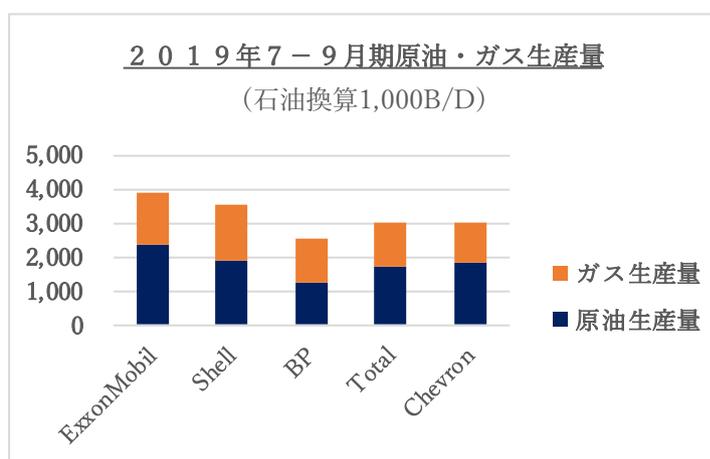
(5)設備投資



2019年7-9月期の設備投資額が最も多いのは ExxonMobil の77億ドル、これに次いで Total 67億ドル、Shell 60億ドルが並んでいる。Chevron 及び BP の設備投資額はそれぞれ50億ドル及び40億ドルであり、BP は ExxonMobil の1/2である。前年同期と比較すると ExxonMobil が17%、BP 及び Total は8%増である。Shell は微増であるが、5社の中で唯一 Chevron は前年同期を下回っている。

るが、5社の中で唯一 Chevron は前年同期を下回っている。

(6)原油・ガス生産量



今年7-9月の原油生産量はExxonMobilが平均日産量239万バレル(以下 B/D)で5社の中では最も多い。その他の4社はいずれも200万 B/D 未満で Shell (187万 B/D)、Chevron(183万 B/D)、Total172万 B/Dである。BPの原油生産量は5社の中で最も少なく122万 B/D で ExxonMobil の5割にとどまっている。ExxonMobil は世界各地で万遍なく原油生産をおこなっており他社を圧倒している。

前年同期と比較すると5社はいずれも増加している。

天然ガスの生産量は Shell が最も多く日産98億立方フィート(以下 cfd)である。第2位の ExxonMobil は90億cfd、残る3社は70億 cfd 台であり、BP78億 cfd、Total 74億 cfd、Chevron 72億cfdであった。前年同期に比べると Total が13%増加しているが、その他の各社の増加率は1

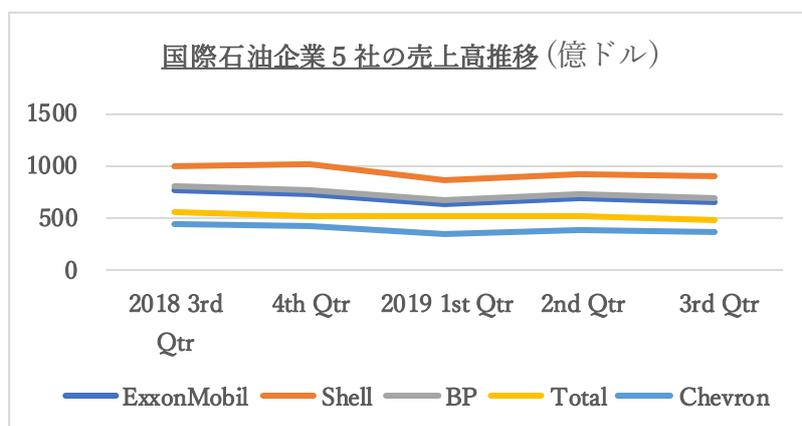
0%未満であり、Shell は▲5.3%と前年同期を下回っている。

天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量では ExxonMobil は390万 B/D でこれに次ぐのが Shell の356万 B/D である。その他の3社は Total が304万 B/D、Chevron 296万 B/D、BP257万 B/D である。石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil は石油61%、天然ガス39%であり5社の中では石油の比率が最も高い。その他の各社の石油と天然ガスの比率は Chevron が石油60%:天然ガス40%、Total は石油57%:天然ガス43%である。BP は石油48%、天然ガス52%であり、5社の中では唯一天然ガスの比率が石油を上回っている。

2. 2018年第3四半期以降の四半期別業績の推移

五社の売上高、利益(全体、上流部門および下流部門)、設備投資、原油・天然ガス生産量に関する2018年7-9月期以降今期までの四半期ごとの業績推移は以下の通りである。

(1) 売上高の推移



2018年第3四半期から2019年第3四半期に至る四半期ベースの売上高の推移は、この間の原油価格の変動と密接に関連している。ブレント原油の価格は2018年第3四半期の平均で1バレル75.16ドルであった。しかし第4四半期は68.81ドルに急落、今年第1四半期も63.

13ドルに下落、下落幅は2期連続して8%以上を記録した。第2四半期は68.86ドルに回復したが、第3四半期には再び62.00ドルに下落、過去1年間で最低の水準に落ち込んでいる。

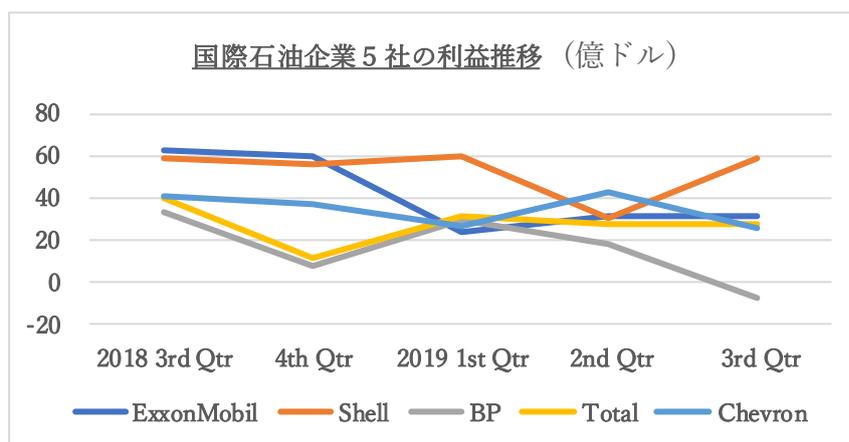
ExxonMobil、BP 及び Chevron の売上高は上記の価格変動をそのまま反映しており、Shell は昨年第4四半期は油価の下落にもかかわらずわずかながら増収となったが、しかしそれ以降は油価の動きと軌を一にしている。Total だけは過去1年間を通じて油価の変動に関係なく連続して売上が減少している。

各社の四半期ごとの推移を見ると売上高が最も多い Shell は1,002億ドル('18 3rd Qtr)→1,022億ドル(4th Qtr)→857億ドル('19 1st Qtr)→918億ドル(2nd Qtr)→895億ドル(3rd Qtr)であり他の四社を大きく引き離してトップを維持している。ExxonMobilとBPは全期を通じて殆ど差が無く、BPは795億ドル('18 3rd Qtr)→757億ドル(4th Qtr)→663億ドル('19 1st Qtr)→727億ドル(2nd Qtr)→683億ドル(3rd Qtr)、また ExxonMobil は766億ドル('18 3rd Qtr)→719億ドル(4th Qtr)→636億ドル('19 1st Qtr)→691億ドル(2nd Qtr)→650億ドル(3rd Qtr)であった。売上高4位の Total は547億ドル('18 3rd Qtr)→525億ドル(4th Qtr)→512億ドル('19 1st Qtr)→512億ドル(2nd Qtr)→486億

ドル(3rd Qtr)と毎期減少しており、今期は昨年同期に比し1割の減収であった。売上高が最も少ない Chevron は440億ドル('18 3rd Qtr)→424億ドル(4th Qtr)→352億ドル('19 1st Qtr)→389億ドル(2nd Qtr)→361億ドル(3rd Qtr)であり、昨年は400億ドル台を維持したものの、今年は300億ドル台に転落している。

(2)利益の推移

過去1年間の四半期ごとの利益水準は各社によって異なり Chevron 以外の各社は期毎に利益の振れ幅が大きい。



5社の中では Shell は58億ドル('18 3rd Qtr)→56億ドル(4th Qtr)→60億ドル('19 1st Qtr)と昨年年初から今年初めまでコンスタントに60億ドル前後の利益を計上している。前期は利益が30億ドルに半減、今期はV字回復を遂げて59億ドルであっ

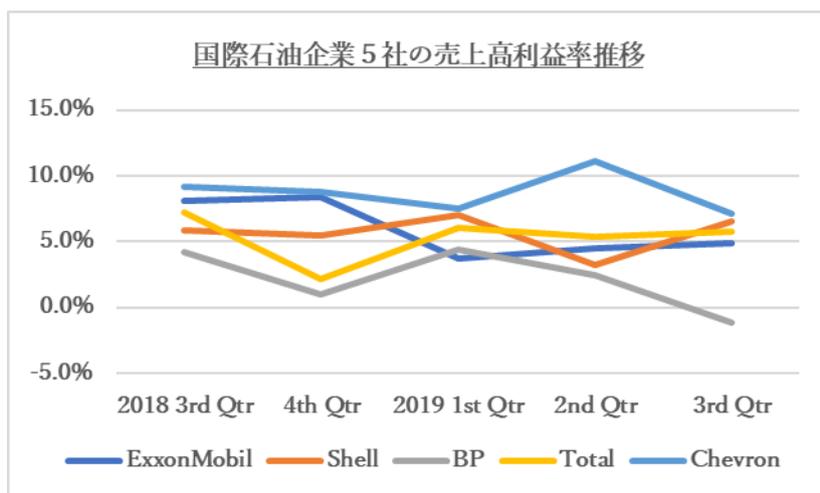
た。同社は前期以外は60億ドル弱の利益を確保しており、5社の中では安定した高い利益水準を維持している。ExxonMobilの昨年第3四半期及び第4四半期は62億ドル、60億ドルと5社で最も高い利益を誇っていたが、今年第1四半期は一転して24億ドルに急減、その後前期、今期と30億ドル強の利益にとどまっている。

BP と Total は今年の第1四半期までは同じような利益変動の曲線を描いていたが、Total が今年に入り3期連続で30億ドル前後の安定した利益を計上しているのに対し、BP は今年第1四半期以降利益が急激に低下し、今期はついに7億ドルの欠損になっている。Chevron は40億ドル('18 3rd Qtr)→37億ドル(4th Qtr)→26億ドル('19 1st Qtr)→43億ドル(2nd Qtr) →26億ドル(3rd Qtr)と5社の中では比較的安定している。

(3)売上高利益率の推移

1年前の昨年第3四半期の五社の利益率は Chevron が9.2%と最も高く、次いでExxonMobil 8.1%、Total 7.2%、Shell 5.8%と続き、BP は最も低い4.2%にとどまっている。Chevron の利益率はその後も8.8%(4th Qtr)→7.5%('19 1st Qtr) →11.1%(2nd Qtr) →7.1%(3rd Qtr)と高い水準を維持して常に5社のトップである。

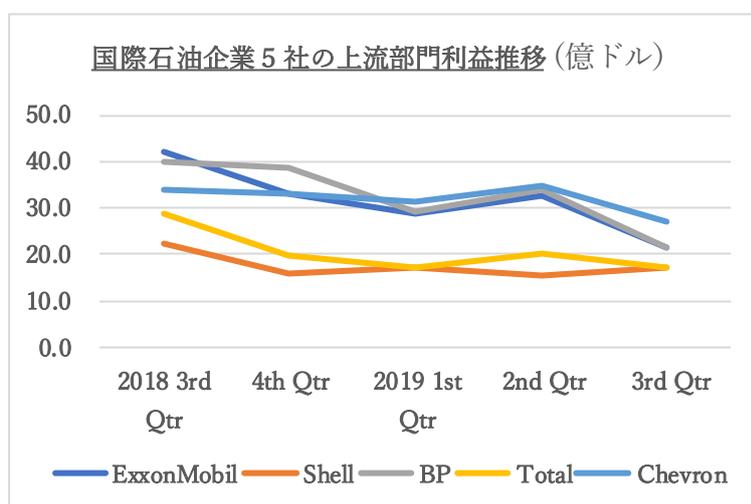
一方5社の中で利益率が最も低いのは BP であり、昨年第3四半期以降も4.2%('18 3rd Qtr)→1.0%(4th Qtr)→4.4%('19 1st Qtr) →2.5%(2nd Qtr)にとどまり、今期は5社中で唯一マイナス1.1%を記録している。



(上流に弱く下流に強い Shell !)

(4) 部門別利益の推移

(4-1) 上流部門



前年の2018年第3四半期において上流部門の利益が最も多かったのは ExxonMobil の42億ドルであり、BP の40億ドル、Chevron の34億ドルがこれに続いている。Total の利益額は29億ドルで5社の中で上流部門の利益が最も少なかったのは Shell の22億ドルであった。

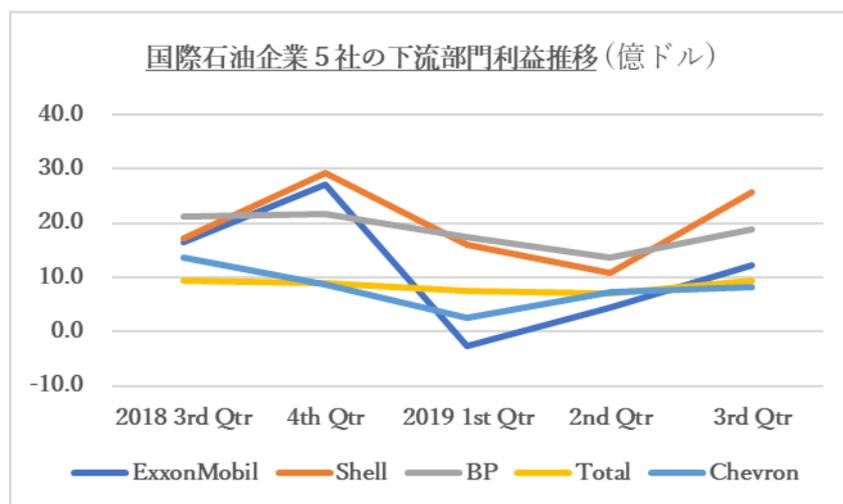
続く第4四半期は各社とも利益が減少する中でBPは前期横ばいの39億ドルの利益を計上して5社のトップになった。Shellの利益は16億ドルに減少、前期に続き5社中の最下位であった。今年第1四半期も各社とも利益水準が低下、第2四半期の利益水準はわずかながら改善したものの、今期は再び悪化、上位3社 (ExxonMobil、BP、Chevron)の落ち込みが激しく、ExxonMobil 及び BP は1年前に比較すると利益が半減しており、各社とも過去1年で最低の水準である。

5四半期を通じて各社の上流部門の利益を比較すると、Shell が5社の中で最も利益水準が低く、同社の上流部門は他の4社に比べて見劣りがする。上流部門では ExxonMobil、BP、Chevron の3社がトップ争いを演じながら上位グループを形成し、Shell 及び Total が下位グループとなる状況が続いているが、今期は上位と下位グループの差が縮小している。

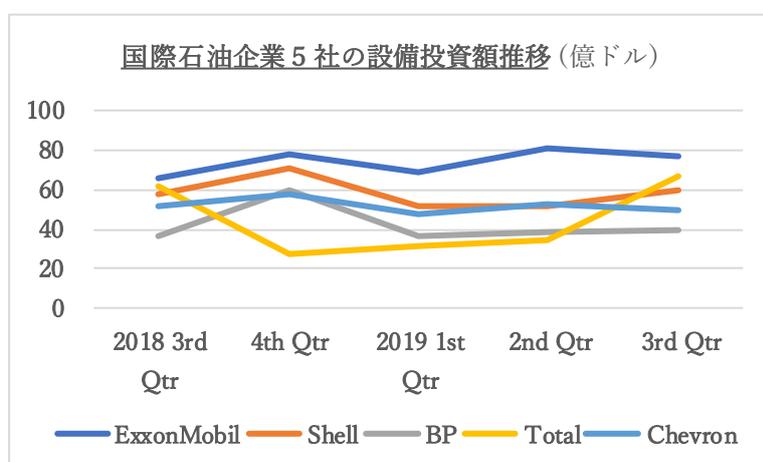
(4-2) 下流部門

下流部門は2018年第3四半期及び第4四半期まで全社が利益を計上していた。昨年第3四半期はBPが21億ドルの利益を計上、Shell、ExxonMobil 及び Chevron3社の利益は10億ドル台であ

り、Total は9億ドルにとどまっている。続く第4四半期は Shell 及び ExxonMobil の利益が急騰 BP、Chevron 及び Total は低迷した。しかし今年第1四半期には ExxonMobil の利益が急減、ExxonMobil は5社の中で唯一3億ドルの欠損となった。今年第2四半期は Shell 及び BP が引き続き利益が減少、ExxonMobil 及び Chevron が増益となり各社の明暗が分かれた。今期は5社いずれもが前期よりも利益が改善しているが、特に Shell は V 字回復となり他社を大きく上回る26億ドルの利益を出している。



(5) 設備投資の推移

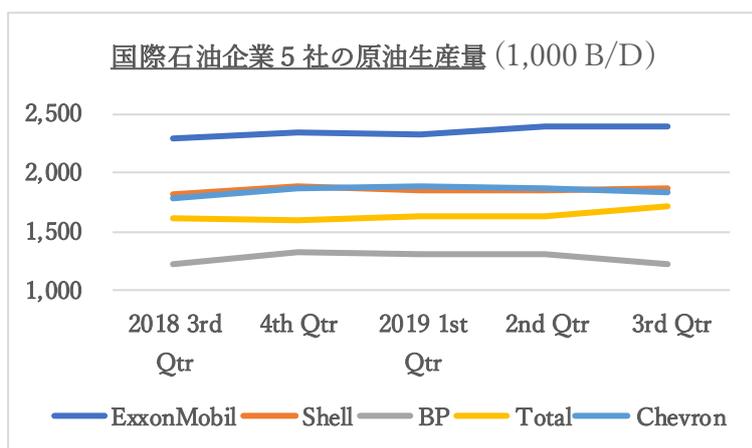


5社の過去1年間の四半期ベース設備投資額は ExxonMobil 及び Chevron が每期ほぼ安定した投資を行っている。ExxonMobil の投資額は66億ドル('18 3rd Qtr)→78億ドル(4th Qtr)→69億ドル('19 1st Qtr) →81億ドル(2nd Qtr) →77億ドル(3rd Qtr)であり、全期を通じて常に5社で最大の投資を続けている。

同社に次ぐ投資を行っているのは Shell であり、その金額は58億ドル('18 3rd Qtr)→71億ドル('18 4th Qtr)→51億ドル('19 1st Qtr) →52億ドル(2nd Qtr) →60億ドル(3rd Qtr)と推移している。Chevron の場合は每期50億ドル前後でほぼ安定している。Total(62億ドル)は昨年第3四半期の設備投資が ExxonMobil に次いで多かったが、その後急減し5社中で最も少なかった。しかし今期は67億ドルで再び ExxonMobil に次いで5社中2位となっている。

(6) 原油・天然ガス生産量の推移

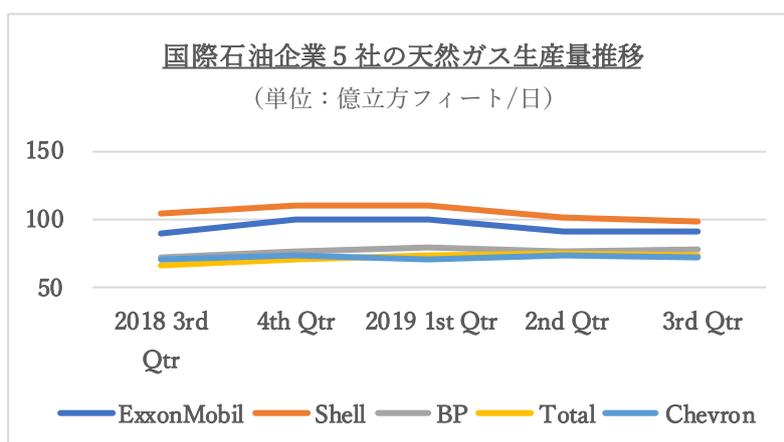
(6-1) 原油生産量(図 <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-4-68.pdf> 参照)



過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移を見るとExxonMobilが他社を大きく引き離して5期連続でトップを守っている。ExxonMobilの生産量は5社の中でただ1社200万B/D台を維持しており、今年第3四半期の生産量は239万B/Dであった。ExxonMobilに次ぐ二番手グループはShellとChevronであり、両社

の生産量は180万B/D台でほとんど同じである。Totalは2018年第3四半期161万B/Dであったが、その後漸増し、現在は172万B/Dに達している。BPの1年前の生産量は5社の中で最も少ない122万B/DでトップExxonMobilの5割であった。その後一時的に130万B/D前後まで伸びたが、今期は再び1年前の水準に逆戻りしている。

(6-2)天然ガス生産量

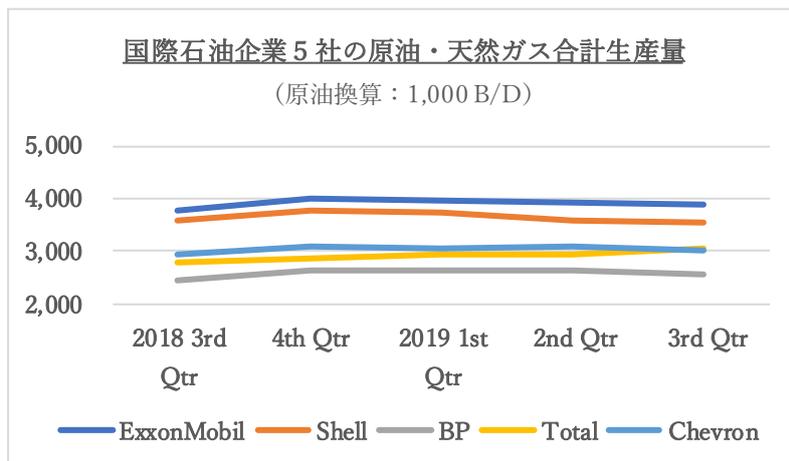


天然ガスの生産量はExxonMobilとShellの上位グループ2社とBP、Total、Chevronの下位グループ3社の2極に分かれている。Shellの過去1年間の生産量は104億立方フィート('18 3rd Qtr)→110億立方フィート('18 4th Qtr)→110億立方フィート('19 1st Qtr)→101億立方フィート('19 2nd

Qtr)→98億立方フィート('19 3rd Qtr)である。2018年第4四半期ピークに達した後、今期は100億立方フィートを下回り過去1年間では最も少ない生産量である。ExxonMobilもShellとほぼ同様の軌跡をたどっており、両社の差は10億立方フィート前後で推移している。他の3社は5期を通じてわずかながら増産傾向にあるが、その差は殆ど無く、70億立方フィート台を維持している。

(6-3)原油・天然ガス合計生産量(図 <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-4-65.pdf> 参照)

天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量の推移を見ると各社とも2018年第3四半期から第4四半期にかけて増産傾向が見られ、その後現在まで停滞している。生産量が最も多いExxonMobilは石油換算で379万B/D('18 3rd Qtr)→401万B/D('18 4th Qtr)→398万B/D('19 1st Qtr)→391万B/D('19 2nd Qtr)→390万B/D('19 3rd Qtr)であり、これに次ぐShellの場合はExxonMobilよりも20~30万B/D前後少ない360万B/D('18 3rd Qtr)→379万B/D('18 4th Qtr)→375万B/D('19 1st Qtr)→358万B/D('19 2nd Qtr)→356万B/D('19 3rd Qtr)で推移している。



Chevron の生産量は昨年第4四半期に300万 B/D の大台を超えて現在に至っており、Total も280万 B/D('18 3rd Qtr)→288万 B/D('18 4th Qtr)→295万 B/D('19 1st Qtr)→296万 B/D('19 2nd Qtr)→304万 B/D('19 3rd Qtr)と着実に生産を増やして300万 B/D を突破 Chevron を上回る生産量を達成している。

最も少ない BP の生産レベルは250～260万 B/D で ExxonMobil 或は Shell のほぼ7割である。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
 Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
 E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

2019年7-9月期国際石油企業の業績

年		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron
売上高(百万ドル)	2019年7-9月	65,049	89,541	68,291	48,589	36,116
	前年同期	76,605	100,151	79,468	54,717	43,987
	増減(%)	-15.1%	-10.6%	-14.1%	-11.2%	-17.9%
総合損益(百万ドル)(*)	2019年7-9月	3,170	5,879	▲ 749	2,800	2,580
	前年同期	6,240	5,839	3,349	3,957	4,047
	増減(%)	-49.2%	0.7%	-122.4%	-29.2%	-36.2%
上流部門損益(百万ドル) (*)	2019年7-9月	2,168	1,722	2,139	1,734	2,704
	前年同期	4,229	2,249	3,999	2,864	3,379
	増減(%)	-48.7%	-23.4%	-46.5%	-39.5%	-20.0%
下流部門損益(百万ドル) (*)	2019年7-9月	1,230	2,574	1,883	952	828
	前年同期	1,642	1,709	2,111	938	1,373
	増減(%)	-25.1%	50.6%	-10.8%	1.5%	-39.7%
売上高利益率(%)	2019年7-9月	4.9%	6.6%	-1.1%	5.8%	7.1%
	前年同期	8.1%	5.8%	4.2%	7.2%	9.2%
設備投資(百万ドル)	2019年7-9月	7,719	5,992	3,954	6,718	4,956
	前年同期	6,586	5,800	3,675	6,208	5,124
	増減(%)	17.2%	3.3%	7.6%	8.2%	-3.3%
原油生産量(1,000B/D)	2019年7-9月	2,392	1,871	1,224	1,720	1,830
	前年同期	2,286	1,810	1,216	1,611	1,787
	増減(%)	4.6%	3.4%	0.7%	6.8%	2.4%
ガス生産量(100万 cfd)	2019年7-9月	9,045	9,810	7,795	7,399	7,215
	前年同期	9,001	10,362	7,218	6,557	7,012
	増減(%)	0.5%	-5.3%	8.0%	12.8%	2.9%
同石油換算(1,000B/D)	2019年7-9月	1,507	1,692	1,344	1,320	1,203
	前年同期	1,500	1,786	1,244	1,193	1,169
	増減(%)	0.5%	-5.3%	8.0%	10.6%	2.9%
原油・ガス合計生産量 (石油換算 1,000B/D)	2019年7-9月	3,899	3,563	2,568	3,040	3,033
	前年同期	3,786	3,596	2,460	2,804	2,956
	増減(%)	3.0%	-0.9%	4.4%	8.4%	2.6%

* 総合損益には石油化学部門あるいはその他の損益を含むため、上流部門・下流部門損益の合計額とは一致しない場合がある。